

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第2号 畜産

発行日 平成25年 4月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 新播草地の雑草は、刈り払いまたは除草剤を適切に選択し対処します。
- ◆ 牧草未定着の場合、播き直しは秋になりますので、その間の圃場管理を検討します。
- ◆ 飼料用トウモロコシの栽培では、品種選定と基本技術を再確認します。

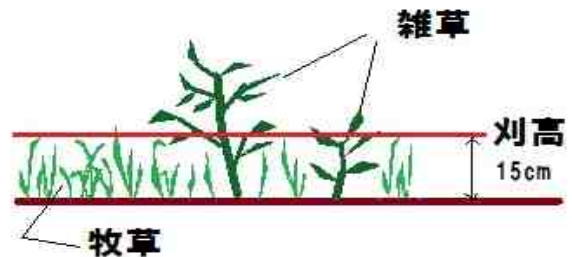
1 新播草地の管理

(1) 雑草対策

牧草定着株数は確保できているが、雑草が目立つ場合は、次ぎにより対処します。

ア 掃除刈

牧草草丈 10cm 以上、ハコベ、ナズナ、ヒメオドリコ草等一年生雑草の草丈 20～30cm 程度で、牧草と雑草発生のタイミングが合い、掃除刈後、集草と圃場持ち出しの必要がないと考えられる場合は、掃除刈を行います。作業機の刈刃をよく研磨し、新播牧草の引き抜きを防ぐとともに、刈高 15cm 程度の高刈とします。



掃除刈のイメージ

イ 除草剤散布

ギンギンが多い場合、掃除刈後に刈り払った草を圃場外に持ち出さなければならないと考えられる場合は、選択性除草剤を用います。

(ア) 一番草収穫前

選択性除草剤のうち、アージラン液剤もしくはハーモニー75DF 水和剤を用います。新播草地なので、維持草地に使用する場合と薬液量が異なります。牧草収穫前の使用期限にも注意下さい。アージラン液剤は高温で薬害が懸念されるため、5月の早い時期までに使用して下さい。なお、ハーモニー75DF 水和剤はマメ科牧草に薬害が出ること、1回の使用であることにも注意下さい。

新播草地一番草収穫前の除草剤

使用時期	除草剤名	10a あたり 散布量	対象 雑草	使用 回数	留意事項
9月～5月 ギンギン類の展葉時期(採草14日前まで)	アージラン 液剤	薬液 100ml 希釈水量 80-100 リットル	ギンギン類 及びキク科 雑草	1回	1 気温が高いと薬害の恐れがあるので、地域の気温を考慮して使用する 2 アルファルファ新播草地では200～300mlを基準とする。 3 散布後 14 日は草地を利用しない。
新播草地定着後(ただしギンギン類草丈20cm以下)、(採草21日前まで)	ハーモニー 75DF 水和剤	薬剤 0.5～1g 希釈水量 100 リットル	ギンギン類	1回	1 クローバーに薬害が生じる恐れがある 2 ギンギンが展葉してから散布する 3 調製した薬剤は速やかに散布すること 4 散布に用いた器具類は、使用後に500倍の消石灰液で確実に洗浄し、他の用途の薬害にならないようにする 5 散布後21日間は採草及び放牧を行わない

(イ) 一番草収穫後から二番草収穫前

ハーモニー75DF 水和剤を用います。一番草収穫後は維持草地での薬液量となります。

一番草収穫後二番草収穫前に使用できる除草剤

使用時期	除草剤名	10a あたり 散布量	対象 雑草	使用 回数	留意事項
雑草生育期 (ただし 採草 21 日前まで)	ハーモニー 75DF 水和剤	薬剤 <u>3~5g</u> 希釈水量 100 リットル	ギシギシ類 及び一年生 広葉雑草	1 回	1 クローバーに薬害が生じる恐れ がある 2 ギシギシが展葉してから散布す る 3 調製した薬剤は速やかに散布す ること 4 散布に用いた器具類は、使用後 に500倍の消石灰液で確実に洗浄 し、他の用途の薬害にならないよ うにする 5 散布後21日間は採草及び放牧を 行わない

(2) 牧草未定着の圃場やシバムギなど地下茎型イネ科雑草が繁茂している場合

ア 牧草の播き直しが必要ですが、雑草との競合を避けるため、播種適期である秋の播種になります。このため、刈り払いや非選択性除草剤の散布で秋の牧草播種に備えます。

イ 非選択性除草剤の使用回数は2回以内ですので、播き直しのための表層攪拌など圃場準備と作業性、除草剤の播種日同日処理を行う場合なども考え、散布時期と回数を計画します。

2 飼料用トウモロコシ

単位面積あたりの栄養収量が高く、飼料代の低減に貢献します。収穫調製時期に確実に黄熟期に到達する品種を選定します。また、下記の栽培基本技術に基づき単位収量の向上に努めましょう。

(1) 品種の選定

とても重要です。栄養収量を確実に確保するため、地域の収穫作業時期の範囲で黄熟期に達する品種を選びます。特に、面積が大きい場合は、早晚性の異なる品種を組み合わせ、収穫期間の延長を図り、作業に無理がないようにします。

(2) 適正な堆肥の施用

堆肥の多量投入はトウモロコシの硝酸態窒素含量を高めるほか、ミネラルバランスも崩れ、家畜の栄養上問題となります。10a 当たり 3~4t の施用としましょう。多量施用する場合は、堆肥の肥効を考慮し、化学肥料の施用量を減らします。

(3) 霜害に注意

トウモロコシの発芽は、播種後約1週間ですので、予想される晩霜の1週間前が播種の早限です。これまで度々霜害を被っている圃場では、播種日を再検討する、覆土を5cm程度に厚くするなどの対策を講じます。

(4) 栽植本数

密植すると雌穂が小さくなり TDN 含量が低下するだけでなく、倒伏にも弱くなります。10a 当たりの適正栽植本数は、極早生品種で 8,000 本、早生品種で 7,000 本、中生品種で 6,500 本、晩生品種で 6,000 本が目安です。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]
[~6月15日]
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！

次号は5月30日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。